

令和5年第8回二戸市教育委員会定例会

議事日程

令和5年8月21日（月）
午後2時00分 開議
二戸市役所 4階3号委員会室

日程第 1 会期の決定

日程第 2 一般報告

日程第 3 議案第 1号 市議会定例会提出議案への同意について
令和5年度二戸市一般会計補正予算第4号（うち教育委員会分）

日程第 4 議案第 2号 教育に関する事務の管理及び執行状況に関する点検及び評価について

日程第 5 報告第 1号 二戸市教育委員会の後援・共催等について

令和5年第8回教育委員会定例会 会議録

1 日 時 令和5年8月21日（月） 午後2時00分

2 場 所 二戸市役所 4階3号委員会室

3 会議に出席した委員

教育長	加藤 暢之	(1番)
委員（教育長職務代理者）	槻 館 行 男	(2番)
委員	佐々木 千穂	(3番)
委員	阿 部 歩	(4番)
委員	荒 谷 直 大	(5番)

※過半数以上の委員の出席があるため成立。（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項）

4 説明のため会議に出席した職員

教育部長	立 花 幸 博
教育企画課長	佐 藤 しのぶ
学力向上推進監	坂 本 真
生涯学習課長	佐 藤 功 也
図書館長	土 屋 美由紀
文化財課長	柴 田 知 二

5 職務（記録）のために会議に出席した者の氏名

教育企画課 主査	相 馬 剛
教育企画課 主任	國 分 知 子

6 会議の概要

- (1) 議題等 別紙議事日程のとおり
- (2) 議事の概要 開会 午後2時00分

加藤教育長 ただいまの出席者は5名です。出席定数は満たしておりますので、会議は成立しています。

加藤教育長 ただいまから、令和5年第8回二戸市教育委員会定例会を開会いたします。

加藤教育長 事務局、本日の傍聴の申し出はありますか。

事務局（佐藤教育企画課長） ありません。

加藤教育長 はじめに会議録の承認を行います。
「令和5年第7回二戸市教育委員会定例会」の会議録につきましては、すでにお渡ししておりますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

委員一同 異議なし。

加藤教育長 それでは、承認いたします。
なお、字句の訂正がありましたら、後ほど事務局までお伝え願います。
また、本日の定例会終了後、出席委員は、二戸市教育委員会会議規則第30条に基づき、会議録に署名をお願いいたします。

日程第1 会期の決定

加藤教育長 それでは、議事日程に従い会議を進めてまいります。
初めに、日程第1「会期の決定」をお諮りいたします。
会期は、本日1日間にしたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員一同 異議なし。

加藤教育長 ご異議がないものと認め、会期は本日1日間といたします。

日程第2 一般報告

加藤教育長 次に、日程第2「一般報告」を議題といたします。
1ページをお開きください。

佐藤教育企画課長 【資料説明】

加藤教育長 説明が終わりました。質疑を許可いたします。

槻館委員 はい。

加藤教育長 槻館委員。

槻館委員 資料P 5（5）の一点目、これだけが具体的に詳細な内容となっているため他との並びで違和感があるように感じたのですが。

加藤教育長 佐藤教育企画課長。

佐藤教育企画課長 はい。ここに記載しております活動状況については、教育長、教育委員の活動をまとめて記載したものでございます。内容については再度調整を図り、修正又は削除を検討したいと思います。

加藤教育長 ほかにありませんか。

佐々木委員 はい。

加藤教育長 佐々木委員。

佐々木委員 今回、非常にA評価が多かったように感じました。これはコロナ禍においても児童生徒の学力向上であったり、生涯学習や文化財の保護や活用に取り組まれた成果だったのだと、一つ一つ見せて頂きました。それと、P11の道徳パワーアップセミナーについての記載がありましたが、オンライン研修なら各校から参加者を募るなど、もっと多くの先生方の参加があっても良かったのかなと思いました。参加資格等、対象者を絞ったものだったのでしょうか。令和5年度の事業計画上も再開予定になっていましたので、今後に向けて増やしていけるのかどうかお伺いしたいです。

加藤教育長 坂本学力向上推進監

坂本学力向上推進監 はい。道徳パワーアップセミナーは、これまで現地、東京学芸

大学へ出向いての研修会を開催してきました。コロナ禍に入り、中止しておりましたが、少しずつオンラインで復活してきたところでした。昨年度においては、これまでの経緯に従って指定校枠の参加を促したところでしたが、その他の学校へもチラシを配布しオンラインへの参加を周知してきました。ところが、当日の日程がお盆前の時期でしたので、なかなか参加者が増えず、結局指定校のみの参加になったという状況でした。

加藤教育長

このセミナーは魅力あるものでして、東京学芸大学の長田先生という講師で、以前は道德の調査官もお勤めで、大変ためになる実践的・有効的な話を多くお持ちの方でした。この方の話を聞くという大きな機会となりますので、また周知する際はこのような情報も併せてアナウンスできればと思っていました。

そのほかありませんか。

荒谷委員

はい。意見になります。どの項目二も言えることにはなりますが、P9のコミュニティ・スクールのように数値目標に対しての評価となると、一見達成すれば良いように見えますが、それがゴールではなくスタートだという意識で、さらに良い方に進めていただければと思ったところでした。

加藤教育長

佐藤生涯学習課長。

佐藤教育企画課長

はい。ご指摘のとおり、コミュニティ・スクールと学校運営協議会が全校で導入・設置され、地域との連携、地域学校協働活動推進員の追加もさらに進めていくこととなります。この後は次のステップに進んでいくという段階に来たと感じているところでしたので、実際の実践の方に移っていくこととなります。地域の課題や学校の通学路の点検等、細かく出し合って、一つ一つ地域でできること、学校でできること、教育委員会でできることを整理しながら進めていこうと考えております。

加藤教育長

そのほかありませんか。

槻舘委員

はい。

加藤教育長

槻館委員。

槻館委員

何点かあるので、まとめてお話しします。

評価内容について、私もAが多い印象があり、頑張った成果だろうと思って見させて頂きました。その中でも評価の根拠について何点かお聞きしたいと思います。

まずP19、学び直しの項目にある「多様な学習ニーズに応える講座の開催」について、講座の開催内容を記載しており、きちんと取り組めたように思うが、なぜ評価がBなのか。次にP20、「教育振興運動の推進」の1点目について、評価内容は理解できるが数値目標があるとその結果との兼ね合いで、評価Aで良いのだろうかというところ。次に、P28、「史跡九戸城跡保護活用事業」について、評価がAだが、先ほどの件と同様、数値目標結果との兼ね合いが気になるということ。そしてP31、「学校体育施設開放事業」について、これも同じです。評価Aにする根拠には弱いかなと思ったところでした。まだ質問ありますがいったん切りますか。

加藤教育長

それでは一度、ここまでのところで回答したいと思います。佐藤生涯学習課長からお願いします。

佐藤生涯学習課長

はい、先に1点目、P19についてですが、公民館講座のところで、これは実は当初、公民館4館体制の時の数値目標を立てていましたので、その目標値との兼ね合いで評価Bにしたというところでした。取組としては、3館体制になりまして、徐々に講座の回数も増えている状況ですが、今回は、当初計画した数値目標との乖離があったため数値目標の記載は削除しつつも、実内容もさらに拡大していきたいという理由で評価はBにしたものでございました。

次に、2点目、P20についてのご指摘でしたが、これはコロナ禍において家庭教育学級の開催回数は減ったものの、各校でできる範囲で取り組むことができたので、総合的な判断で評価Aにしたものでございます。

次、3点目を飛ばして4点目のP31です。学校体育施設の利用については、利用申請は昨年同様で下が、利用延べ人数になりますと、やはりコロナの影響により減少したということでしたので、数値目標の達成率は伸びなかったというところでした。ただ

し、各団体は活動を行っていたため、コロナ禍においてのできることはできたという判断でこれも評価Aにしたものでございます。

加藤教育長

私からも補足します。事業計画していたもののコロナを理由にできなかったものについては評価Cとかではなく、評価不能だということで判断しておりました。コロナ禍の影響は影響で、その他の取組がどれだけできたかというところで総合的に評価していくということで、判断したところでした。

次、3点目として残ってました九戸城保護活用のところ、文化財課長お願いします。

柴田文化財課長

はい。P28について、ここの数値目標について説明いたします。P6にもありますが、点検・評価制度の基準として記載がありますとおりです。九戸城跡保護活用の内容については、御城印やパンフレット、施設維持管理委託があり、それに合わせまして、数値目標を年間来訪者数としていたものでございます。ただ、コロナ禍の影響を受けて来訪者数は減となっていると判断しているものです。つきましては、事業内容全てを総合的に判断しますと、滞りなく進められたということで、評価Aにしたというものでございます。以上です。

加藤教育長

よろしいでしょうか。

では、そのほか、質問意見等、槻館委員続けてお願いします。

槻館委員

はい。それでは、質問意見合わせて7点ほどお願いします。1点目、P11不登校児童の割合について、今後の方向性にいくつか記載ありますが、不登校の割合が増えていることを受け、もっと深刻に受け止め、今後はどうしていきたいというような危機感のような表現方法にならないものかと感じたところでした。表現の問題ですが、増えていることに対する深刻さを感じる表現にしたらどうかという意見です。次、P13、肥満の割合についての評価についてです。これは毎年決まった学年の割合を比較しているもので、同一学年の経年比較ではないものと思います。同一学年の経年比較ならば、評価の表現はこのままで良いのかもしれませんが、学年によって実態は違うので対策の推進になるかという少

し難しいと思うので、減少比をポイントで表現しなくても良いのではないかと思います。3つ目、P14の給食のところ。オール二戸食材の日の取組について、ほんとうにご苦労様ですという思いです。とても良い取組なので年1回でなく、もう少し増やしてもらえともっと地場産物の理解等深められるのではないかと思います。4つ目、P16、高等学校教育の充実について。魅力化の発信ということで、色々な形で支援しているのは分かりますが、実際のところ、定員は割れていますよね。地元中学生も市外にどんどん出ているように思います。取組みを発信しても進学率が上がらないとなると少しがっかりしますし、支援の限界を感じるものです。ますます卒業生の人数が少なくなっていくので、深刻な問題になってくるのかなと思います。5つ目、P17の図書に親しむまち推進事業について。新聞の配付はすごく良い取組だと思っていますが、小学校5・6年生に配布し、2年空いて中学校3年生に配布ということで、せっかくの取組がじつにもったいないなと思っていました。予算の関係もあるのでしょうけれど、中1・2年生の時期にも新聞に触れる機会を作ってもらえるといいなと思います。6つ目、P18の教職員の働き方改革について。業務改善等、良い方向に進んできているとは思いますが、残業時間が減っても、自宅へ持ち帰りしているのではないかな等の部分についても把握し軽減できるといいなという願いです。7つ目、P23の図書館の整備・充実の数値目標を見ますと、両館とも昨年より減っていることの原因はどのように分析しているのか。お聞きしたいと思います、以上です。

加藤教育長

はい、ではページ順に順次お答えしていきます。P11から、坂本学力向上推進監。

坂本学力向上推進監

委員のご指摘通りです。この結果を危機感持って取組を進めていかなくてはならないと思っております。例年学校生活アンケートから早期発見・早期対応ということで、発見しやすくなっているとは思いますが、一度良くなったと思っても回復するまで時間がかかったり、児童生徒一人ひとり不登校の原因は様々であり、家庭や学校、友人関係だったり、多岐にわたる要素へ対し学校も対処しているというところではあります。とにかく早期発見・早期対応という初動の動きを大事にしていきたいと思っていますので、個々

の記載内容についてその意を表現するよう検討したいと思いません。

加藤教育長

次、P13は佐藤教育企画課長。

佐藤教育企画課長

はい。肥満傾向児の割合のところで、全くご意見のとおりでございます。ただ、これまでずっと学校保健会で取り組んできた内容でございまして、小学校4年生と中学校1年生の実績を参考にしながら進めてきたものでして、今回も前年度比の数値からこのような評価内容にしたところでした。確かに経年比較という意味では弱いと思いますので、ここの表現方法につきましては今一度検討したいと思います。

槻館委員

いえ、違和感があるのは評価内容の最後の部分なのです。この前年度比減というところがあるために経年比較が気になってしまうというところでした。当然、長年の取組なので、指定学年の実績を見て対策しているのも分かっています。ただ、このように具体的な数字として表すと実態と一致しないのではないかと感じてしまうということでしたので、ここのポイント表現のところを削除する程度でよろしいのではないのでしょうか。

立花教育部長

補足します。ご指摘のとおり、各学年に対して肥満対策もしているわけですが、確かに同じ学年で比較していくと見やすいのですが、肥満対策は全学年での取組で、もちろん学年ごとにデータもありますし、比較も可能ではあるのですが、明記しているのは定点的にとった数字になっているので、毎年参考にしながら対策を講じていくことにしているということでございます。

槻館委員

はい。分かりました。もちろん、学力もそうですけれども、その年、その学年によって随分違いがあるので、気になったところでした。

加藤教育長

では、次、P14について、給食センター所長。

三浦給食センター所長

まずは、給食センターの取組を評価して頂いたものと思います。ありがとうございます。それで、オール二戸食材の日が増え

ると良いなということで、その通りだと思っています。ただ、これについては、給食センター単独の事業ではなく、農林課との連携事業となっております。予算的にも農林課の予算を入れながらやっている事業です。つきましては、このあと、令和6年度事業計画する際に検討できるかどうかというところで考えていきたいと思います。あとは、地産地消に取り組んで行くことと、栄養基準を満たした質の高い給食の提供ということで、取り組んでいきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

加藤教育長

はい、では次、P16の高校魅力化のところ、佐藤教育企画課長。

佐藤教育企画課長

はい。様々魅力化事業として取り組んで参りましたし、令和4年度からは新たに通学費補助も始めたところでございます。全体の子供の数が減っているのはもちろんですが、市内高校への入学者は年々減っていますので、より効果的な魅力化事業というものを引き続き検討していきたいと考えております。

立花教育部長

補足しますと、この魅力化事業というものは、市だけでなく、県立高校、県教委も含めて取り組んでいかなければならないものだと思っています。市としては地元伝統ある高等学校を残していこうということで、市として入学者確保に向けてできることは何かを考えながら進めてきたものであります。そして、その事業の効果というのもある程度の段階で見極めながらやっていく必要があると思っています。今後一戸高校と福岡工業高校の統合もありますし、そのようなところとも併せて効果を考えながら事業を展開していきたいと思っています。ただ、学校の状況をPRしていくことは必要だと思うので、予算かけなくともできる事業等工夫しながら継続していきたいと考えております。

加藤教育長

私は、別の観点ではありますが、この事業名が少し誤解を招きかねないのではないかと考えていまして、県立高校の魅力化ですので、本来、市としてはあくまでもサポート的に支援していくというイメージの事業名が望ましかったなという思いがあります。

槻館委員

一般の人は確かに誤解しがちだと思います。具体的に支援しているのは良いのですが、市が高校入学生を呼び込まなければなら

ないような状況、苦しい状況にならないよう部長がおっしゃる通りの内容が記載方法に気を付けたいと思ったところでした。

加藤教育長

確かに、少子化ということでは、昨年度の市内出生数は約90名程度でありまして、これがそのまま15年後には高校入学者数の母数となり、その前に、6年後には市内の入学者が90名ということになると思うので、少子化が大きな市の課題ともなってくるだろうと思います。それから、現在では、市内中学生のうちどれくらいの生徒が市外の高校を選択しているものか、割合としてはこの数年変わっていないものなのか等現状把握は必要かなと思います。

立花教育部長

市としましては、市内の中学生には市内の高校を選んでほしいところですが、自分の進路ということで、市外を選択する方々も応援しなければなりません。最終的に二戸に戻ってきてもらうというかたちができるれば一番いいのかなと思います。とはいえ、高校も最低限の入学者数は必要だと思いますので、広い視点で対策を考えていかなければならないと思っています。

加藤教育長

この魅力化事業の内容と、市内高校入学者数の現象の現状を見極めながら検討していく必要があると思っていました。

では、次、P17について、佐藤教育企画課長。

佐藤教育企画課長

はい。ご意見ありがとうございます。実は、岩手日報の事業で、「プラス日報」という試行段階の取組があるということで、近日中に岩手日報さんから詳しい説明を受けることになっております。これは、子どもたちが持っているタブレット端末で、デジタルで新聞記事を読む事ができるというもので、今年度は試行、来年度から本格始動の予定と聞いております。これを学校で試行導入して使い勝手の検証等確認して、導入を検討していきたいと思っています。

加藤教育長

私からもひとつ、全国学調の一つの質問紙、その中の設問で「週1～3回程度新聞を読んでいますか？」というものがありまして、この結果、二戸市の小中学生の状況は国や県の結果と比較しても3倍程度の高い数値となっています。これは、図書に親しむ

まち推進事業の取組の結果だろうと思っております、一つの成果としてよかったかなと思います。

では、次のP18について、佐藤教育企画課長。

佐藤教育企画課長

はい。こちらの方は、教職員の働き方改革についてご意見いただきましたが、現在、業務改善等取り組んでいる途中というところですので、引き続き教職員の働きやすい環境の整備を市教委として取り組んでいきたいと思っております。

立花教育部長

補足します。令和6年度から校務支援システムの導入準備を進めております。これは教職員が児童生徒の成績や学校保健等のデータ管理等様々な学校事務を県下統一のシステム上で使用できるようになるもので、このシステムの導入により、どの市町村に異動になっても負担なく事務作業ができるようになります。これによりまずは事務仕事の改善が進んでいくのではないかと、そして、時間外労働の減少や、児童生徒と向き合う時間に充てたりという方向にもっていききたいというところでございます。

加藤教育長

よろしいでしょうか。では、進めます。次はP23、図書館長お願いします。

土屋図書館長

両図書館の貸出冊数の減少ですが、コロナ禍でどんどん利用者が減ったのは言うまでもないのですが、以前から利用者の大半を占めていた年代、60～70代の方々や小学生となりますが、その方々の利用が減っていることがあります。また、図書館に来て、館内で読んで、借りないで帰るといった場合、これは貸出冊数に反映しないので、数字として積算できないですし、その他には、電子書籍等の利用増が考えられるかと思っております。令和4年度の実績値としてはこのような数字となっておりますが、今年度からは、移動図書館車も運行していますし、各種イベントへ参加して離党、周知を図りながら、さらなる図書館利用を進めていきたいと考えております。

槻館委員

コロナ禍になり、年度ごとに減っているということですね。新しい取組やイベント等で持ち返しているところはあるが、令和4年度は持ち返している数字がまだ反映していないという状況なのですね。高齢者は足を運ばなくなったり、若年層は電子書籍の

利用に移りつつあるのかなというところですね。ありがとうございました。

加藤教育長

観館委員の分は以上となりますが、そのほかありませんか。

佐々木委員

はい。

加藤教育長

佐々木委員。

佐々木委員

P30の資料館、収蔵庫の活用についてですが、毎年質問しておりますが、昨年の説明では、収蔵庫の中に重要文化財が入っているため、公民連携推進課とともに協議しているところだということでした。修繕すると明言しているものの、重要文化財もある中でどのように収蔵・活用していったら良いか結論が出ないため「C」判定でした。そして、今回も評価となるとどうしても「C」となってしまおうというところで、気の毒な気がしておりました。そこで、今後の見通しや評価にあたってのコメントがあればお伺いしたいです。

柴田文化財課長

ご心配頂きましたが、昨年度までは公民連携推進課が主体となって市の重点事業として進めてきましたが、連携して指定文化財の収蔵について検討してきたところでございます。

今年度に入りまして、主体が漆の郷づくり推進課に移管され、内部で具体的な内容を検討しているところでございます。また、今週、漆の郷づくり推進課長と県教委生涯学習文化財課と三者で協議する場がありますので、状況が整いましたら文化庁へ具体的な内容を相談していけたらと思っております。なにぶん、指定文化財であるということと、これまでの経緯、様々な条件のある中で進み始めているということで、昨年度までよりは一歩足を踏み入れて進んでおりますので、ご理解いただきたいと思います。

佐々木委員

少し安心いたしました。私事ですが、春先に県立美術館でみちのくいとしのほとけたちという展覧会に行っていました。そこには天台寺からのものも展示されておりまして、地元の仏さまが展示されていることに誇らしさを感じてきました。これから全国を巡回するということでしたし、浄法寺の収蔵庫にはこのよう

な二戸市の目玉となるようなみちのくの仏さまがたくさんあると思うので、沢山の方々に見て知っていただけるような施設ができたらいいなと思います。これまでも様々取り組まれてきたと思いますので、時間がかかってもそのような方向に向かっていってほしいという思いです。公に評価されにくいというところで本当に気の毒に思っているところで、大切に時間かけて進めていってもらいたいなと思っております。以上です。

加藤教育長

そのほかありませんか。

荒谷委員

はい。

加藤教育長

荒谷委員。

荒谷委員

1点、P11のおあしすの利用者数についてです。延べ人数とかで記載した方が実際の利用状況が分かりやすいのではないかと考えたものでした。何か理由があってこの記載にしたのでしょうか。

加藤教育企画課長

佐藤教育企画課長。

佐藤教育企画課長

はい。ここは、実際の対象人数を計上しております。確かに延べ人数等の方が状況がわかりやすいのかもしれませんが、利用者ひとり一人によって利用状況が様々で、週何日、月何日とか学校登校との兼ね合いだったりに違いがございますので、実人数での記載内容としたものです。今年度はこの方法をとらせていただきながら、来年度に向けては、分かりやすい記載内容を検討していきたいところでご理解頂きたいと思います。

加藤教育長

ちょっとこの辺は難しいところかなと思います。どんな数字を示していくべきか、配慮・吟味も必要かと思いますが、今年度はこれでお示ししたいと思います。

ほかにありますか。

委員一同

なし。

加藤教育長

委員一同
それでは、議案第2号「教育に関する事務の管理及び執行状況に関する点検及び評価について」は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

異議なし。

加藤教育長

それでは、ご異議ないものと認め、議案第2号は原案のとおり、可決いたします。

日程第5 報告第1号「二戸市教育委員会の後援・共催等について」

加藤教育長

日程第5 報告第1号「二戸市教育委員会の後援・共催等について」を議題といたします。
報告第1号の説明をお願いします。

佐藤生涯学習課長

【資料説明】

加藤教育長
加藤教育長

説明が終わりました。質疑を許可いたします。
ないようですので、次回の定例会の日程を決めたいと思います。事務局からお願いします。

佐藤教育企画課長

はい。次回の定例会は、9月27日（水）午後2時から開催したいと考えております。よろしくお願ひいたします。

加藤教育長

事務局から、以上の提案がありましたが、委員の皆様ご都合はいかがでしょうか。

委員一同

異議なし。

加藤教育長

それでは、第9回定例会は9月27日（水）午後2時から開催することといたします。

加藤教育長

以上で、令和5年第8回二戸市教育委員会定例会を閉会いたします。ありがとうございました。

閉会 午後3時30分